

ストップしていました。我が三条ロータリークラブは、新潟県で7番目、日本国内で204番目に出来たクラブです。三条南ロータリークラブさんは、三条ロータリークラブが、十周年のときにスポンサーになって出来たわけですが、日本国内で、870番目、北ロータリークラブさんは、1470番目に出来たクラブです。現在、新潟県だけで、2560地区、56クラブあります。これは、すべてロータリーの友に書いてありますので、是非ご覧下さい。

RI会長グレンE. エステス氏の今年のテーマは、「ロータリーを祝おう」ですが、この会長の言葉を借りますと、「100年に及ぶロータリーの親睦と奉仕には、祝うに足る十分な理由があります。百周年にあたる、私たちの年度に、私は、全ロータリアンに向かって、一緒にロータリーを祝おう、とお願いしたいのです。私は、ロータリアンの皆様に、過去の成功の自己満足ではなく、現在の困難への、新たな危機感を持って、「ロータリーを祝おう」と呼びかけています。何十年に渡る奉仕によって、私たちは、自然災害と、新たな恐ろしい病や、残忍な紛争に取り巻かれた世界において、人類が必要とする、ことの重大さを知らされました。ロータリーを祝う最善な方法の一つは、私たちの100年の経験の重みを十分に活かし、それらの莫大な人道的需要に取り組むことでしょう。まず、第一に、「超私の奉仕」を進めることで、ロータリーを祝おうではありませんか。」これが会長の言葉ですが、百周年ということで、どこかの会社が、あるいは、どこかの団体の百周年と同じことではなく、「超私の奉仕」を超えた奉仕で、百周年を祝ってほしいということです。

地区としては、百周年のロータリー活動のPRを、2月23日の新潟日報の一面を借りて行います。但し、それ以外の活動は、各クラブの自主性にお任せするので、何か一つ行事をやり、百周年を祝おう。というのが、第2560地区のガバナーの方針です。したがって、個々の分区、あるいは、個々のクラブでそれぞれ百周年の行事が行われているようです。

私も、百周年記念IMを企画しておりましたが、昨年の水害・地震などがあり、第4分区会長、幹事会におきまして、第4分区すべて集まって、盛大にやる事もどうか、ということで、地区の了解を得て、見合わせることにしましたが、記念の行事は、各クラブで何かやって欲しいということで、本日、三条3クラブが、合同で一つの記念例会を行うに至ったわけです。記念祝賀会としなかったのは、RI会長の方針に沿って、皆で祝う意味が、奉仕を考えた祝い方でやりたいということです。なので、記念合同例会とさせていただいたことを、ご理解いただきたいと思います。今後とも、RI会長の意向に沿った「超私の奉仕」をもとに、これからもロータリー活動を続けていきたいと思っています。皆様方も、ロータリアンであれば、ご存知のことと思いますが、なにとぞ、ご協力をよろしくお願いいたします。

実は、最初はあまり盛大な祝典はなるべく控えて、自分たちのロータリー活動のPR程度にして欲しいというのが、地区の方針でしたが、水害、地震などで、すべてのことが、自粛ムードになっていました。したがって、皆様方が夜お出かけになるところが暇で、非常に困っているため、地区の方針を変え、去年の年末は、各クラブで、アルコールの入った、記念例会をして欲しいということでした。今日は奉仕のための祝う会と同時に、盛大にお祝いするわけではありませんが、ちょっとアルコール

を入れていただいて、今後のロータリー活動の糧にしていきたいと思います。

私は、落語が好きなので、一つ都々逸を申し上げます。「この先を やめちゃあいやだよ 飲まして おくれ まさか しらふじゃ 言いにくい」これは男女の仲を扱った都々逸ですが、ちょっぴりアルコールが入りますと、好きなことが言えます。今日は、皆様方に大いに飲んでいただいて、今後のロータリー活動について、盛んに議論していただき、また、ごゆっくりとご歓談いただきたいと思います。これで、私の百周年の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

☆ 三条市長 高橋一夫様

皆様こんばんは。

国際ロータリー創立百周年、大変おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。先ほどの会長さんのご挨拶にもありましたように、今から100年前に、当時のシカゴの荒廃を憂いで、若き弁護士、ポール・ハリスが、仲間と語らい、自分たちの会社を回り回って会場とし、始めたのがロータリーの始まりであります。一業種一人、また、「私が奉仕する」という崇高な理念の下に国際奉仕・社会奉仕・職業奉仕という各分野で、奉仕をされてきました。「私が奉仕する」であるがゆえに、孤立しがちな会員同士をサポートし、また、情報交換をするという意味で、親睦と言う会が非常に大きなウェートを持っているというのがロータリーだということを、つい最近までロータリアンでしたので、その時に勉強させていただきました。先ほどの会長さんのお話とぴったり合っていたので、間違えはなかったなあと安心致しました。

当時のシカゴと、今の日本を比べると、物質的に比べると、何倍、何十倍も今の日本が豊になっているんだろうと考えます。しかし、心の荒廃という形からすると、今の日本のほうが当時のシカゴよりもより以上に社会現象から行くと、深刻になっているような気がしてなりません。と言うことは、皆様方のお仕事が、より以上に、地域に求められている時代なのだろうという風に感じています。私も行政も住みよい町作りに頑張っているわけですが、皆様方から、更なるご協力をいただきたいと思います。

昨年の7・13水害では、今日ご出席の皆様方の中にも、直接的・間接的にいろいろな形で被災された方が多くいらっしゃると思います。心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復を願って止みません。その時も、皆様方は勿論のこと、県内外からロータリーの方が大勢おいでいただき、ボランティアとして被災者の方々の泥出しや、いろいろな形でご援助いただきました。また、ロータリーアクトの諸君からも壊れた公園の復旧という形で、お力をいただきました。重ねて御礼を申し上げる次第です。同時にまた、今日は、被災した幼稚園、小中学校の子供たちに夢を与えたいと、たくさんのご寄付をいただきましたことに御礼を申し上げます。きっと、皆様方の、子供たちに夢を、と言うその願いが、水害にあって心を病んだ子供たちの心を癒し、そしてまた、大きな夢を与えてくれるものと私も確信しています。最後になりますが、皆様方の、ますますのご繁栄とご発展、弥栄と、各分野における奉仕活動をさらに盛んにしていただくことを御記念申し上げ、お祝いと、御礼の挨拶とさ